

エグゼクティブサマリ

第 I 部 イメージスキャナに関する調査

(1) 2019 年の出荷実績

2019 年のイメージスキャナの出荷実績は以下のとおりであった。

2019 年 イメージスキャナ市場	台数 (前年比)	金額 (前年比)
国内出荷と輸出を合わせた総出荷	300 万台 (6%減)	685 億円 (10%減)
フラットベッドスキャナ	94 万台 (23%減)	66 億円 (22%減)
ドキュメントスキャナ	205 万台 (4%増)	618 億円 (8%減)

2019 年のイメージスキャナの出荷実績は、台数では約 300 万台 (前年比 6%減)、金額では約 685 億円 (前年比 10%減) と、台数・金額ともに減少という結果となった。

フラットベッドスキャナ (A3 以下/50,000 円以下のフラットベッド) は、台数・金額ともに前年比 2 割減となった。主に業務で紙文書の電子化や OCR などに使用されるドキュメントスキャナは、輸出が好調で前年比で台数 4%増・金額 8%減となった。

(2) 2022 年までの出荷見通し

2022 年 イメージスキャナ市場	台数 (2019 年比)	金額 (2019 年比)
国内出荷と輸出を合わせた総出荷	303 万台 (1%増)	821 億円 (20%増)
フラットベッドスキャナ	89 万台 (6%減)	62 億円 (7%減)
ドキュメントスキャナ	213 万台 (4%増)	756 億円 (22%増)

2022 年のイメージスキャナの見通しは、台数では約 303 万台 (2019 年比 1%増)、金額では約 821 億円 (同 20%増) と見通した。

フラットベッドスキャナは、2019 年と比べて台数で 6%減、金額でも 7%減との見通しとなった。

一方ドキュメントスキャナは、成長は鈍化するものの引き続き成長が見込まれ 2019 年と比べて台数で 4%増、金額で 22%増となる見通しである。

※今回の出荷見通しは、コロナ禍の影響が顕著となる以前の 2020 年 2 月に 2019 年までの実績を元に試算したものでありコロナ禍の影響は考慮していない。

Ⅱ部 OCR 関連装置に関する調査

1. 2019 年の市場規模

2019 年（2019 年 1 月から 12 月）の OCR 市場は、金額ベースで約 93 億円となっており、2018 年比で約 10%増という結果になった。台数（本数）ベースでは、「デバイスタイプ」が約 7 千台（本）となっており 2018 年比で約 5%増となった。文書用 OCR「ソフトウェアタイプ」については、従来の新聞、雑誌および論文等の技術資料に記載される活字文書の読み取りから名刺、免許証や領収書、レシートなど多様な文書の読み取りに活用範囲が広がっており、また OCR メーカーが減少していることから、伝票処理用 OCR「ソフトウェアタイプ」と統合し、「ソフトウェアタイプ」として金額集計のみを実施することとした。よって台数（本数）は「デバイスタイプ」のみの集計結果となっている。2019 年度台数（本数）と金額が増加した主な要因としては、AI や RPA などと組み合わせて OCR システム導入が活発化しているものと推測する。「ソフトウェアタイプ」が、金額ベースで約 19%増の約 18 億円となっており、製品単価が低下しサブスクリプションや課金サービスなどの料金体系の変更が進んできていると推測する。ソリューションサービスは金額ベースで、26%増の約 23 億円となった。

2. 2022 年までの見通し

2022 年の OCR 市場は、金額ベースで約 78 億円（2019 年比 約 16%減）と見通した。タイプ別では、「デバイスタイプ」は台数ベースで約 1.7 万台、金額ベースで約 49 億円、「ソフトウェアタイプ」は金額ベースで約 14 億円と見通した。

「デバイスタイプ」は、2021 年以降、大型機から小型機への分散化による台数増加はあるものの、新型コロナの影響により設備投資や企業の装置リプレース需要が減少して金額ベースでは減少していくと見通した。

「ソフトウェアタイプ」は 2018 年以降、より一層の低価格化、サブスクリプションや課金サービスの浸透など販売体系が変更されおり減少と見通した。

ソリューションサービスは、2020 年以降は微減で推移するものと見通した。

以上